

1 高等学校学習指導要領の改訂に向けて（中央教育審議会答申より）

(1) 改善の方向性

中央教育審議会答申（以下「答申」という。）では、社会科、地理歴史科、公民科の課題を次のように整理している。

- ・主体的に社会の形成に参画しようとする態度や資料から読み取った情報を基にして、社会的事象の特色や意味などについて比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力の育成が不十分であること
- ・社会的な見方や考え方について、その全体像が不明確であり、それを養うための具体策が定着するには至っていないこと
- ・近現代に関する学習の定着状況が低い傾向にあること
- ・課題を追究したり解決したりする活動を取り入れた授業が十分に行われていないこと

社会科、地理歴史科、公民科においては、上記の課題を踏まえ、社会との関わりを意識して課題を追究したり解決したりする活動を充実し、知識や思考力等を基盤として社会の在り方や人間としての生き方について選択・判断する力、自国の動向とグローバルな動向を横断的・相互的に捉えて現代的な諸課題を歴史的に考察する力、持続可能な社会づくりの観点から地球規模の諸課題や地域課題を解決しようとする態度など、国家及び社会の形成者として必要な資質・能力を育てていくことが求められる。

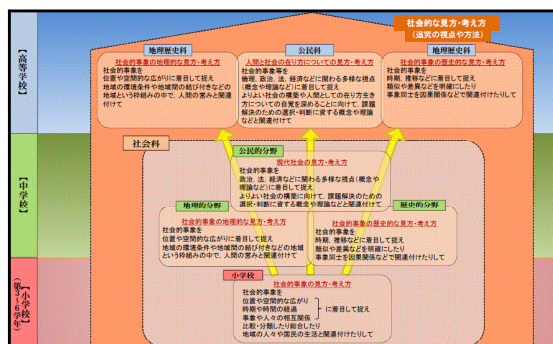
これを踏まえ、社会科、地理歴史科、公民科における教育目標は、従前の目標の趣旨を勘案して「公民としての資質・能力」を育成することを目指し、その資質・能力の具体的な内容を「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱で整理する。その際、高等学校地理歴史科、公民科では、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することが必要である。

(2) 具体的な改善事項

ア 資質・能力を育成する学びの過程についての考え方

三つの柱に沿った資質・能力を育成するためには、課題を追究したり解決したりする活動の充実が求められる。そうした学習活動を充実させるための学習過程の例としては、大きくは課題把握、課題追究、課題解決の三つが考えられる。また、それらを構成する活動の例としては、動機付けや方向付け、情報収集や考察・構想、まとめや振り返りなどの活動が考えられる。

これらの活動において、時間、空間、相互関係などの視点に着目して事実等に関する知識を習得し、それらを比較、関連付けなどして考察・構想し、特色や意味、理論などの概念等に関する知識を身に付けるために、社会的事象等を見たり考えたりする際の視点や方法である「社会的な見方・考え方」（図1）を働かせることが必要となる。

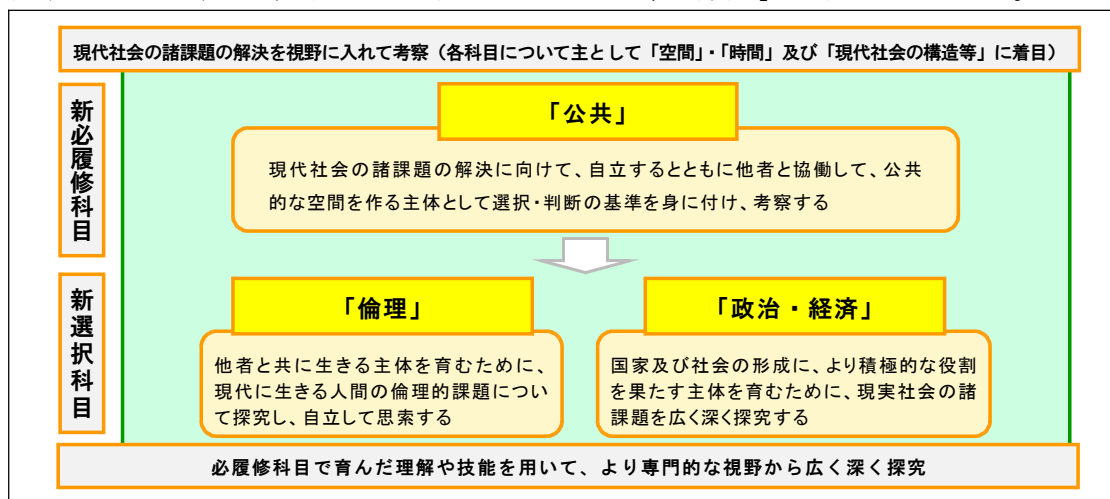


【図1】（答申資料 別添3-4より）
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_3_1.pdf

イ 科目構成の見直し

公民科の科目構成を見直し、共通必修科目としての「公共」を設置し、選択履修科目として「倫理」及び「政治・経済」を設置する（図2）。

なお、「倫理」及び「政治・経済」は地理歴史科と同様に探究を行う科目であるが、学習対象である「倫理」については「探究」がその本質的な内容の一部であることから「倫理探究」という科目名はなじまず、また、「政治・経済」のみに「探究」を付すことは混乱を招くおそれもあることから、「探究」を付していない。



【図2】（答申資料 別添資料3-7より作成）

ウ 学習・指導の改善充実（「主体的・対話的で深い学び」の実現）

(ア) 「主体的な学び」の視点

主体的な学びについては、生徒が学習課題を把握しその解決への見通しを持つことが必要である。そのためには、単元等を通じた学習過程の中で動機付けや方向付けを重視するとともに、学習内容・活動に応じた振り返りの場面を設定し、生徒の表現を促すようにすることなどが重要である。

(イ) 「対話的な学び」の視点

対話的な学びについては、話し合いの指導が十分に行われずグループによる活動が優先し内容が深まらないといった課題が指摘される場所であり、深い学びとの関わりに留意し、その改善を図ることが求められる。

(ウ) 「深い学び」の視点

深い学びの実現のためには、「社会的な見方・考え方」を用いた考察、構想や、説明、議論等の学習活動が組み込まれた、課題を追究したり解決したりする活動が不可欠である。具体的には、教科・科目及び分野の特質に根ざした追究の視点と、それを生かした課題（問い）の設定、諸資料等を基にした多面的・多角的な考察、社会に見られる課題の解決に向けた広い視野からの構想（選択・判断）、論理的な説明、合意形成や社会参画を視野に入れながらの議論などを通し、主として用語・語句などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、主として社会的事象等の特色や意味、理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関わる知識を獲得するように学習を設計することが求められる。

2 資質・能力を育成する学習指導の改善・充実

(1) 学習指導の改善・充実を図るための教科研修の例

これからの教員には、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善や教材研究、学習評価の改善・充実などに必要な力等が求められている。そのため、校内の研修体制の一層の充実を図ることが重要である。ここでは、学習指導の改善・充実を図るための教科研修の例を示す。(主)は「主体的な学び」、(対)は「対話的な学び」、(深)は「深い学び」以下同)

① 研修テーマの設定
研修テーマ「学習課題（問い）は、生徒の考察・追究・探究を促すために有効なものであったか」を設定した。

② 研究授業（現代社会）の実施

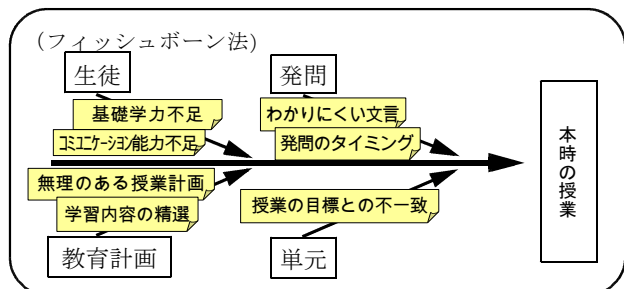
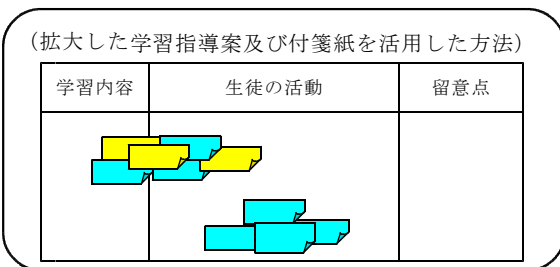
参観者は、水色の付箋紙に「生徒の考察・追究・探究が進んでいた様子」を、黄色の付箋紙に「生徒の考察・追究が停滞した様子」を記入することとした。

単元名	現代の民主政治と政治参加の意義		
単元の目標	基本的人権の保障、国民主権、平和主義と我が国の安全について理解を深め、天皇の地位と役割、議会制民主主義と権力分立など日本国憲法に定める政治の在り方について国民生活とのかかわりから認識を深めさせるとともに、民主政治における個人と国家について考察させ、政治参加の重要性と民主社会において自ら生きる倫理について自覚を深める。		
本時の目標	基本的人権の保障の充実と発展が民主政治の究極の目標であることについての認識を深める。		
評価規準	民主政治の究極の目標は、基本的人権の保障の充実、発展であることについて認識を深め、社会契約説の概念について理解し、その知識を身に付けている。【知】		
本時の展開（11時間のうち2時間目）			
過程	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点等
導入 (5分)	○本時のねらいの説明	○単元全体を見通し、本時のねらいを理解する。 (2分)	○前時を振り返り、単元全体の見通しを示す。 ○「問い」により本時のねらいの理解を深めさせる。
	【問い①】各人が自分の利益や価値観を主張し合い、譲歩や妥協をしなかったら、どのような社会になるだろうか。 ○社会契約説の思想背景	○ペアで協議し、協議内容を発表する。(3分) (対)	○ペアの組合せは、生徒同士の協働、学び合いが成り立つよう十分配慮し、適宜、ペアを組み替える。
展開 (38分)	【問い②】自然状態で最初につくるルールは何だろうか。 ○社会契約説の思想の内容と与えた影響	○グループで協議し、根拠や理由を含めた協議内容を発表する。(7分) (対)	○生徒同士の協働、教員との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、生徒自らの考えを広げ深めさせる。
	まとめ (5分)	○本時の学習内容のまとめ ○本時で学んだことに加え、現代における政治の課題について、ノートにまとめる。(5分) (主)	○社会契約の思想を理解させるとともに、次の学習において、習得した知識等を活用し、現代における政治の課題について考察する見通しを持たせる。

③ 研究協議の実施

拡大した学習指導案を使用し、以下の流れで協議を実施した。

協議テーマ	学習課題（問い）は、生徒の考察・追究・探究を促すために有効なものであったか	
項目	内容	
○ 研究授業で書き出した付箋紙の共有（15分）	○ 参加者が授業を見ながら記入した付箋紙を拡大した学習指導案に貼り、授業中の生徒の学習活動の様子を共有する。	
○ 協議（15分）	○ 二色の付箋紙が混在したところを中心に、本時の学習課題（問い）が生徒の考察・追究・探究を促すために有効であったか協議する。【付箋紙の活用】	
○ 学習課題（問い）の検討（20分）	○ 本時の授業展開についての課題を考察する。【フィッシュボーン法の活用】 ○ 協議や考察を踏まえ、次時の学習課題（問い）を検討する。	



④ 改善の方向性

- ・協議で考えた学習課題（問い）を授業で示し、その授業について検証する教科研修（2次）を実施する。
- ・研修の前後に授業評価（生徒アンケート）を実施し、改善内容の妥当性を評価する。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実践例

前項で示した課題の解決に向け、学習指導の改善・充実を図った指導例を示す。

ア 「倫理」の学習指導の例

ー単元の指導と評価の計画ー

【単元の目標と評価の観点の例】(一部)				
単元名	現代に生きる人間の倫理(21時間)			
単元の目標	人間の尊厳と生命への畏敬、自然や科学技術と人間とのかかわり、民主社会における人間の在り方、社会参加と奉仕、自己実現と幸福などについて、倫理的な見方や考え方を身に付けるとともに、他者と共に生きる自己の生き方にかかわる課題として考えを深める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">単元の中心となる問い：他者と共に生きる自己の生き方にかかわる課題について考えを深めよう。</div>			
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価規準	現代に生きる人間が直面する諸課題に対する関心を高め、倫理的視点から意欲的に探究し、他者と共に生きる自己の生き方について考えようとしている。	現代に生きる人間が直面する諸課題について、多面的・多角的に考察し探究するとともに、倫理的な見方や考え方を身に付け、他者と共に生きる自己の生き方に関わる課題を広い視野に立って主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代に生きる人間が直面する諸課題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、先哲などの考え方や生き方を自らの思索を深めるために活用している。	現代に生きる人間が直面する諸課題について、自己の生き方とつなげて理解し、人格の形成に生かす知識として身に付けている。
次期	学習内容と問い			評価の観点 関 思 技 知
第4次	【学習内容】現代の科学技術の根底にある基本的な見方や考え方を理解する。 <div style="background-color: yellow; padding: 2px;">【本時の中心となる問い】科学的な見方や考え方とはどのようなものだろう。</div>			◎

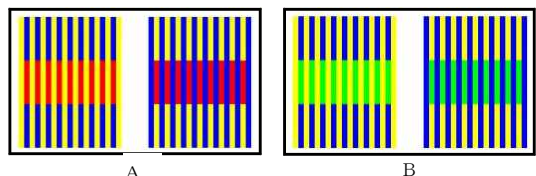
1 本時の目標			
(1) 経験論と合理論の基本的な考え方について理解する。			
(2) 先哲の基本的な考え方を手掛かりにして、他者とともに生きる自己の生き方に関わる課題について考えを深める。			
2 本時の展開(21時間予定の4時間目)			
過程	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入	○本時のねらいの説明	○単元全体を見直し、本時のねらいを理解する。	○前時を振り返り、単元の見直しを示す。
	【問い①】人はだまされやすいのだろうか。		
展開	○ベーコンのイドラ、「知は力なり」	○錯覚を体験する。 ○ベーコンの4つのイドラについて理解する。	○例えばインターネットの情報等、生徒の日常生活と関連付け、具体例を示して考えさせる。
	【問い②】科学的な見方や考え方とはどのようなものだろう。		
	○経験論 ○合理論	○偏見や先入観にとらわれず、公正に判断するための方策について、グループで思考を可視化するHOWツリーを活用し、話し合い、学び合う。☑ ○教室内に各グループのHOWツリーを掲示し、相互に見合う。 ○現代の科学技術の根底にある基本的な見方や考え方を理解する。	○ベーコン『ノヴム・オルガスム』の「感覚は事物の尺度である」という原典の口語訳等を参考に思考を深めさせる。
	【問い③】経験論と合理論について具体例を示して説明しよう。		
まとめ	○本時の振り返り	○科学的な見方や考え方について理解を深める。	○ペアで互いに説明し、相互に評価させる。
		○自分の生き方を振り返り、他者とともに生きる上で陥りがちな偏見や先入観と、それを取り除く方策についてノートにまとめる。☑・☑	○次時の見直しを示し、単元の中心となる問いに関して、生徒の興味・関心を高めさせる。

教材活用の工夫

- 人間の様々な錯覚について体験し、現代の生活との結び付きを踏まえ、先哲の思想について考える学習活動を取り入れたこと。

下のAの中央の色はそれぞれ何色に見えるだろうか。左がオレンジ色、右が赤紫色に見えないだろうか。しかし、実際はどちらも同じ赤色である。

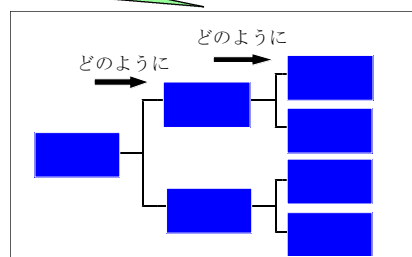
下のBの中央の色はそれぞれ何色に見えるだろうか。



(北岡明佳の錯視のページより引用)
他にも様々な錯視の例が紹介されている。

教材活用の工夫

- 思考を可視化し、学び合いを促進する学習活動を取り入れたこと。
- 思考ツール「HOWツリー」を活用し、偏見や先入観にとらわれず、公正に判断するためにはどのようにすることができるか、話し合い、理解を深める学習活動を取り入れたこと。



イ 「政治・経済」の学習指導の例
 ー 単元の指導と評価の計画 ー

【単元の目標と評価の観点の例】(一部)				
単元名	民主政治の基本原則と日本国憲法 (21時間)			
単元の目標	日本国憲法における基本的人権の尊重、国民主権、天皇の地位と役割、国会、内閣、裁判所などの政治機構を概観させるとともに、政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務の関係、議会制民主主義、地方自治などについて理解させ、民主政治の本質や現代政治の特質について把握させ、政党政治や選挙などに着目して、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治の在り方について考察させる。			
	単元を中心とする問い：望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方とはどのようなものだろう。			
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価規準	現代の政治に対する関心を高め、民主政治の本質や現代政治の特質を意欲的に追究し、望ましい政治の在り方や主権者としての政治参加の在り方について客観的に考察しようとしている。	現代の政治から課題を見だし、民主政治の本質や現代政治の特質を多面的・多角的に考察し、望ましい政治の在り方や主権者としての政治参加の在り方について社会変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代の政治に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して、効果的に活用している。	日本国憲法の基本的性格、政治機構、政治と法の意義と機能、人権保障と法の支配、権利と義務の関係、議会制民主主義、地方自治など民主政治の基本原則や、民主政治の本質と特質を捉える基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付けている。
次程	学 習 内 容 と 問 い			評価の観点
				関 思 技 知
第6次	【学習内容】地方自治について関心を高める。			◎ ◎
	【本時の中心になる問い】我が国の地方自治の政治制度はどのようになっているのだろうか。			

1 本時の目標

(1) 地方自治は住民自らの意思と責任の下で行われるものであり、民主政治の基盤をなすものであることを理解し、その知識を身に付ける。

(2) 「北海道」のHPに掲載されている「北海道の予算」を用いて地方自治体の財政状況を分析し、望ましい政治の在り方について考察する。

2 本時の展開 (21時間予定の6時間目)

過程	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入	○本時のねらいの説明	○本時のねらいを理解する。	
展開	【問い①】北海道の財政状況を説明しよう。		
	○地方財政の現状	○「北海道」のHPから地方自治体の財政状況を把握し、考察する。 ○まとめた結果を、ペアワークで説明し合う。 対	○教科書を参考に、他の自治体の状況と対比させる。 ○北海道だけの状況ではないことに気付かせる。
	【問い②】地方自治体の抱える課題とは何だろうか。		
	○地方自治体の役割と課題	○教科書から役割と課題について、ワークシートに整理する。 ○ペアワークで、地方自治体の抱える課題を述べ合う。対	○自分の気付きを他者へ論理的に説明させる。
まとめ	○本時の振り返り	○本時を振り返りながら、課題の解決、新たな動きについて、教科書を参考に探し出す。	○次時の見通しを示し、単元を中心とする問いに関して、生徒の興味関心を高めさせる。

教材活用の工夫

ここでは、「北海道高等学校学力向上推進事業」における教材(平成27年度生徒用教材)を活用し、地方自治体の役割や課題を整理するためのワークシートを作成。教材を基にしてさらに授業展開に合わせたワークシートとなっていること。

【ワークシート】

- 「北海道」の財政状況
「北海道」のHPを見てみよう
- 課題1 北海道の「歳入」の内訳及び金額を調べ、次の欄に書いてみよう。

内訳	金額
地方税	
地方交付税	
国庫支出金	

- 課題2 課題1で整理した北海道の「歳入」の特徴について整理してみよう。
※教科書の資料(全国の各地方自治体の財政状況)と対比させて考えてみよう。

- 地方公共団体の仕事と財源
(1)仕事・・・地方分権一括法(1999年)の施行
【 】自治体本来のもの
学校・警察・消防など
【 】国からの委託、国政選挙
戸籍管理・国道管理など
- 課題3 地方自治体の抱える課題は何か。財政面その他様々な角度から考えてみよう。

(3) 義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るための指導例

高等学校学習指導要領の教育課程の編成・実施に当たって配慮すべき事項に、学校や生徒の実態等に応じ、必要がある場合には、義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るための学習機会を設けることが示されている。

ここでは、授業において「ほっかいどうチャレンジテスト」（義務教育課作成）を活用し、基礎的・基本的な事項を身に付けさせる取組例を示す。

ほっかいどうチャレンジテストの活用例

活用例1 政治・経済「現代の政治」（平成29年度1学期末問題第2回社会中3を使用）

【ワークシート】

単元名 民主政治の基本原則と日本国憲法「主権者としての政治参加の在り方」

課題1 日本の選挙権の拡大

先人たちは選挙権を得るために多くの努力をはらってきた。まず、次の問題から日本の選挙権の拡大について整理しよう。

2 次の文章を読み、問題に答えなさい。

1912年、桂内閣が三度目の内閣を組織するが、議院中心の政治を求めたが、桂内閣に反対する運動を起し、桂内閣を総辞職に追い込みました。また、1925年、加藤内閣は、選挙権の拡大につながる普通選挙法を成立させました。このように大正時代を中心に広まった、民主主義を求める動きや風潮を、 といいます。

(1) に当てはまる語句を書きなさい。

(2) 下線部について、どのように選挙権が拡大したのか、下の表を参考に、具体的な数字を挙げで説明しなさい。

法改正年	1900年	1907年	1919年	1925年	1945年
年齢	25歳以上	25歳以上	25歳以上	25歳以上	20歳以上
性別	男子	男子	男子	男子	男女
所得	15円以上	10円以上	30円以上	なし	なし
人口に占める割合	1.1%	2.2%	5.5%	20.1%	51.2%

（出典）選挙権法改正協議会「衆議院議員選挙の実績」から作成

(1)

(2)

〈活用の流れ〉

- 既習事項の確認を行い、学習の定着を確認する。
- 既習事項について説明させるなどして、単なる用語の理解にとどまらせないようにする。
- 選挙権の拡大とともに、政治的無関心の広がりが見られることなど、政治参加の在り方を考えさせる授業展開へつなげる。

活用例2 政治・経済「現代の経済」（平成26年度学年末問題第8回社会中3を使用）

【ワークシート】

単元名 「租税の意義と役割」

課題1 確認しよう

教科書で確認しながら、主な税金を分類してみよう。

課題2 説明してみよう

直接税と間接税の違いについて、次の用語を用いて説明してみよう。「納税者」、「担税者」

3 我が国の主な税金を分類した次の表を見て、(1)～(3)の問いに答えなさい。

	国 税	地 方 税
直接税	所得税、 <input type="text"/> A	事業税、 <input type="text"/> B
間接税	消費税、 <input type="text"/> C	固定資産税、 <input type="text"/> D
	関税、 <input type="text"/> E	地方消費税、 <input type="text"/> F
		入湯税、 <input type="text"/> G
		ゴルフ場利用税、 <input type="text"/> H

(1) 下線部について、我が国では、所得が多くなるほど税率が高くなる方法がとられている。この方法の名称を書きなさい。

(2) 下線部について、平成26年4月1日からの税率を書きなさい。

(3) 表中の A～ H にははまる語句の組合せとして正しいものを、ア～エから1つ選び、記号を書きなさい。

ア A：自動車税 B：法人税 C：酒税
 イ A：法人税 B：自動車税 C：酒税
 ウ A：自動車税 B：酒税 C：法人税
 エ A：法人税 B：酒税 C：自動車税

課題3 考えよう

税金の使途について、説明してみよう。

	使途
消費税	<input type="text"/>
入湯税	<input type="text"/>

課題4 調べよう ～国債は必要？～

日本は国債依存度が少なくありません。国の借金は果たしてどれくらいなのか。調べてみよう。

※インターネットでは、今現在の日本の借金額がわかります。

〈活用の流れ〉

- 既習事項の確認を行い、学習の定着を確認する。
- 用語の整理を通じて、国民生活における租税の意義と役割について考える。
- 税金の使途について関心をもつことが大切であることを理解する。
- 限られた財源をいかに配分すれば国民福祉が向上するか考察する。

Topic

政治的教養を育む教育について

■「現代社会」における関係機関と連携した政治的教養を育む教育の取組例

●政治的教養を育む教育の充実について

高等学校等においては、教育基本法第14条第1項を踏まえ、これまでも平和で民主的な国家・社会の形成者を育成することを目的として政治的教養を育む教育を行ってきたところであるが、公職選挙法の一部を改正する法律（平成27年法律第43号）により選挙権年齢の引下げが行われたことなどを契機に、習得した知識を活用し、主体的な選択・判断を行い、他者と協働しながら様々な課題を解決していくという国家・社会の形成者としての資質や能力を育むことが、より一層求められている。このため、議会制民主主義など民主主義の意義、政策形成の仕組みや選挙の仕組みなどの政治や選挙の理解に加えて現実の具体的な政治的事象も取り扱い、生徒が国民投票の投票権や選挙権を有する者として自らの判断で権利を行使することができるよう、具体的かつ実践的な指導を行うことが重要である。ここでは、関係機関と連携し、具体的な政治的事象を取り扱い、選挙制度などについて実践的な学習を行った「現代社会」の授業の取組例を示す。

●関係機関との連携について

北海道選挙管理委員会では、高校生を対象に、講義、模擬投票及びワークショップ等を通じて、選挙の仕組みや投票参加の意義について理解を深めさせ、将来の政治参加を促すきっかけとするため「選挙啓発出前講座」を行っている。

実施内容は、選挙講座、選挙啓発DVD上映、グループ討議及びワークショップ、模擬投票を適宜組み合わせることを基本とし、最終的には実施校と調整の上、決定する。

●単元の指導と評価の計画の例

単元名		現代の民主政治と政治参加の意義（全11時間）					
単元の目標	基本的人権の保障、国民主権、平和主義と我が国の安全について理解を深め、天皇の地位と役割、議会制民主主義と権力分立など日本国憲法に定める政治の在り方について国民生活とのかかわりから認識を深めるとともに、民主社会における個人と国家について考察し、政治参加の重要性と民主政治において自ら生きる倫理について自覚を深める。						
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解			
評価規準	現代の民主政治に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、民主社会における人間としての在り方について考察しようとしている。	現代の民主社会の諸事象から課題を見だし、民主社会において求められる価値や民主政治を基礎付ける考え方などについて幸福、正義、公正などを用いて多面的・多角的に考察し、民主政治の在り方や民主社会における人間としての在り方について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ、公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代の民主政治に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に役立つ情報を適切に選択して、効果的に活用している。	基本的人権の保障、国民主権、平和主義と我が国の安全、天皇の地位と役割、議会制民主主義と権力分立について理解し、その知識を身に付けている。			
次程	学習内容と問い				評価の観点		
				関	思	技	知
第9次 (2時間扱い)	【学習内容】政治参加の重要性について自覚を深める。 【本時の中心となる問い】若者の選挙への関心を高める方法について考えよう。				◎		◎

1 本時の目標

- 政治参加は、国民の重要な権利であると同時に義務とも言えるものであることを踏まえ、主権者としての在り方生き方について考察する。
- 大衆民主政治の下における政治的無関心の増大がもつ危険性について理解する。

2 本時の展開（11時間予定の9、10時間目）

過程	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入	○選挙制度	○選挙に関する動画を視聴する。	○動画の代わりに、副教材「私たちが拓く日本の未来」を活用し、選挙の種類や、投票の方法等について講義することもできる。
展開	【問い①】若者の選挙への関心を高める方法について考えよう。 ○主権者としての在り方生き方	○グループに分かれ、ブレインストーミング法によりアイデアを出し合い、各グループから出た意見を集約する。☒ ○意見を5つの意見にまとめ、これに対して模擬投票を実施する。	
	【問い②】選挙に関するクイズに挑戦しよう。	○クイズは○×とともに、理由や根拠を答える。	○代表生徒は、実際の集計機器を使用し、模擬投票の開票作業を行う。
まとめ	【問い③】政治的無関心の危険性について考えよう。	○模擬投票の結果を踏まえ、投票に行かない人が増加した場合、どのような危険性があるか考える。☒・☒	○大衆民主政治の下における政治的無関心の背景について考えさせる。



「これからの〇〇地域に必要なこと」、「飲酒・喫煙年齢について」等のテーマでグループで討議させることもできる。



模擬投票で使用する記載台、投票箱、投票用紙は、選挙管理委員会と相談の上、選挙管理委員会から借りて、実際の選挙と同様の環境の中で体験させることもできる。

